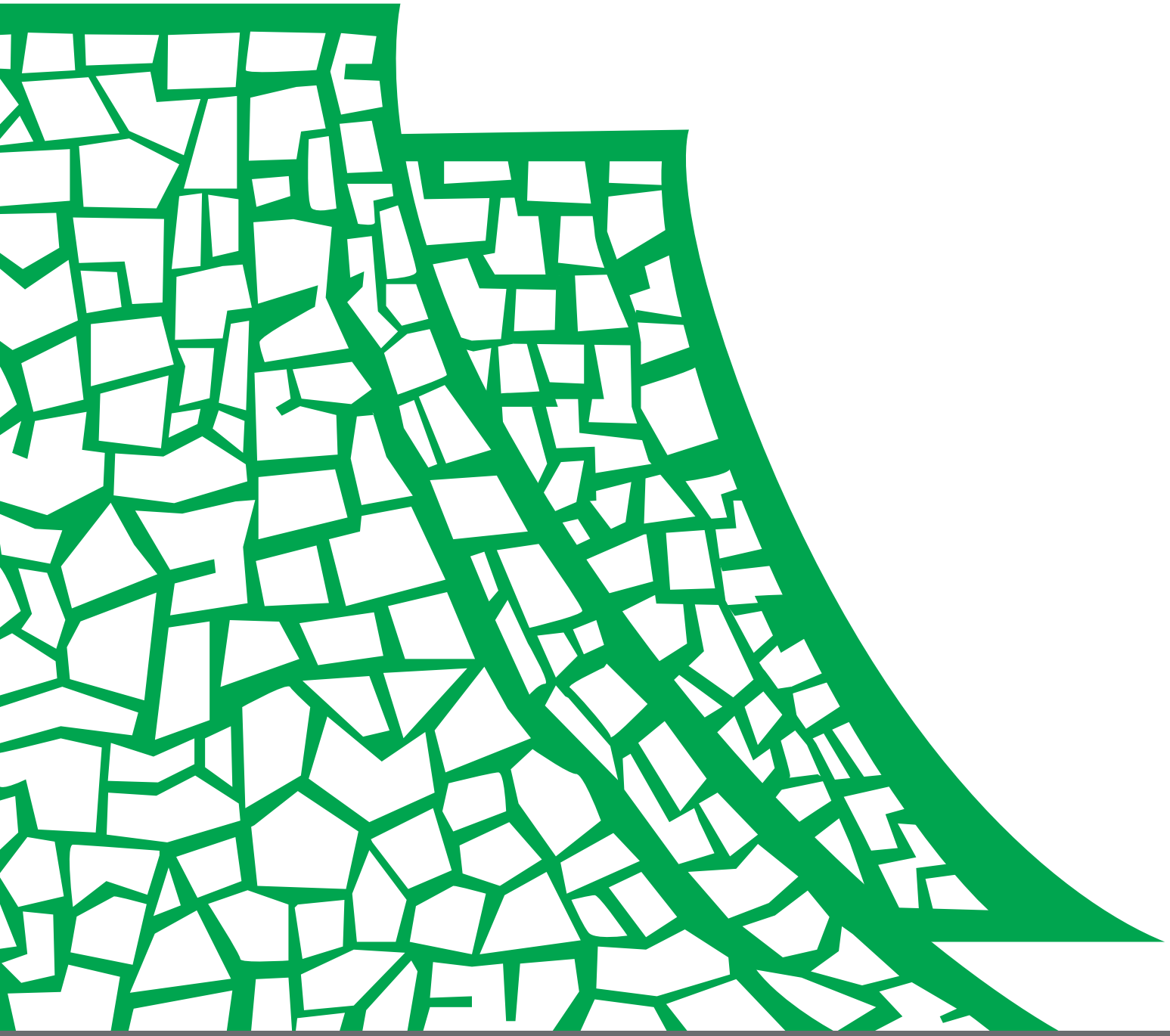
人とまちが元気になる
文化創造都市をめざして

熊本市文化芸術振興指針



熊本市

このページは白紙です。

第Ⅰ章　基本的な考え方

1　指針策定の趣旨 …… 4
2　策定の背景
(1)　社会の変化と国の動向 …… 5
(2)　本市の現状と課題 …… 5
①　少子高齢化社会に対応した文化芸術活動の担い手の育成 …… 5
②　豊かな文化都市としてのブランド確立と情報発信力の充実 …… 6
③　市民、民間団体、地域、企業、行政等による協働の拡充・推進 …… 8
3　理念と取り組みの方針 …… 10
4　指針の位置づけ …… 12
5　指針の対象とする「文化芸術」の範囲 …… 12

第Ⅱ章　目標と取り組みについて

(1)　方針1
文化芸術活動を活発化し、市民の文化力を高める
目標1　文化芸術にふれる機会を充実させよう
（文化芸術鑑賞機会の充実） …… 16
目標2　文化芸術活動への参加を促し、活動の担い手を支援しよう
（文化芸術活動への支援） …… 17
目標3　文化芸術を支える人材を育成し、活動する環境を充実させよう
（文化芸術を支える体制づくり） …… 18
(2)　方針2
歴史と自然を活かした熊本らしい都市文化をつくる
目標1　熊本城をはじめとした歴史的文化遺産や伝統文化を保存し、活用しよう
（文化遺産の保存・活用、継承） …… 20
目標2　豊かな自然を保全・活用し、水と緑にまつわる文化を次の世代に引き継ごう
（水や緑にまつわる文化の保存と活用） …… 21
(3)　方針3
文化力で活力あるまちづくりをすすめ、都市の魅力を高める
目標1　文化芸術を活かして地域を活性化しよう
（文化芸術を活かした産業やにぎわいの創出） …… 22
目標2　文化芸術を通した交流をすすめ、新たな文化を創造しよう
（文化芸術による交流の促進、新たな文化の創造） …… 23
6　取り組みの推進に向けて …… 24

巻末資料：熊本市文化及び国際化に関する市民意識調査（概要版） …… 25

このページは白紙です。

第I章
基本的な考え方

1　指針策定の趣旨

文化芸術は、私たちに喜びや感動、心のやすらぎをもたらし、人生に潤いを与えてくれるものであると同時に、豊かな感性や創造性を育み、人間形成にも大きく影響を及ぼすものです。また、人と人とを結びつけ、相互理解を促し、多様な価値観を認め合える心豊かな社会の形成やまちの魅力と活力の創出にも大きな役割を果たします。

本市では、このような認識の下、平成15年3月に熊本市文化振興計画を策定し、「一人ひとりが心の豊かさを実感できるくらしの実現」を理念として掲げ、文化振興に関する取り組みを進めてきました。

しかしながら、少子高齢化・国際化・情報化・価値観の多様化がさらに進み、都市間競争の激化、経済成長の鈍化など社会情勢が大きく変化する中で、社会や市民ニーズの変化に対応する新たな文化芸術の振興が求められるようになりました。

そこで、今後の本市の文化芸術を振興するうえでの目標とその実現に向けた取り組みの方向性を明らかにし、心豊かな市民生活を実現するとともに、本市の活力と魅力を高め、「文化力」により評価される都市をめざすため、「熊本市文化芸術振興指針」を策定するものです。

2　策定の背景

(1)　社会の変化と国の動向

近年、文化芸術の持つ人々を引き付ける魅力や社会に与える影響力（「文化力」）が、国や地域の力になるという認識が深まるとともに、文化芸術の創造性を活かして市民の活力を引き出すことにより、新たな創造を生み出し、産業の振興や地域活性化を進めていく「文化芸術創造都市」（クリエイティブシティ）という概念が広がりつつあります。

一方、国においては、平成19年2月に第2次「文化芸術の振興に関する基本的な方針」を策定し、文化芸術で国づくりを進める「文化芸術立国」をめざすため、文化芸術の振興にあたって重点的に取り組むべき事項として、次の6項目を掲げています。

① 日本の文化芸術の継承、発展、創造を担う人材の育成
② 日本文化の発信及び国際文化交流の推進
③ 文化芸術活動の戦略的支援
④ 地域文化の振興
⑤ 子どもの文化芸術活動の充実
⑥ 文化財の保存及び活用の充実

(2)　本市の現状と課題

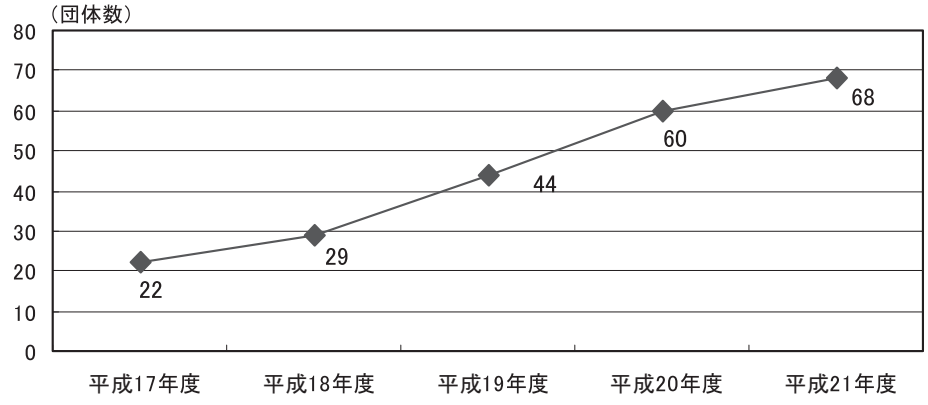
①　少子高齢化社会に対応した文化芸術活動の担い手の育成

少子高齢化が進行する中、わが国は人口減少社会を迎えています。本市においても、総人口は増加しているものの、0歳から14歳までの人口は、長期的な減少傾向にあり、次代の文化芸術の担い手の育成は大きな課題です。

また、家庭や地域の教育力の低下が指摘されるなど子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中では、特に伝統的な生活文化や伝統芸能を次世代に伝えていくことが難しくなっています。

そこで、長い歴史や自然に育まれてきた文化を継承・発展させ、新たな文化を創造していくため、家庭や学校、地域などにおいて様々な機会をとらえ、子どもたちが文化芸術にふれる機会をさらに充実することが必要です。

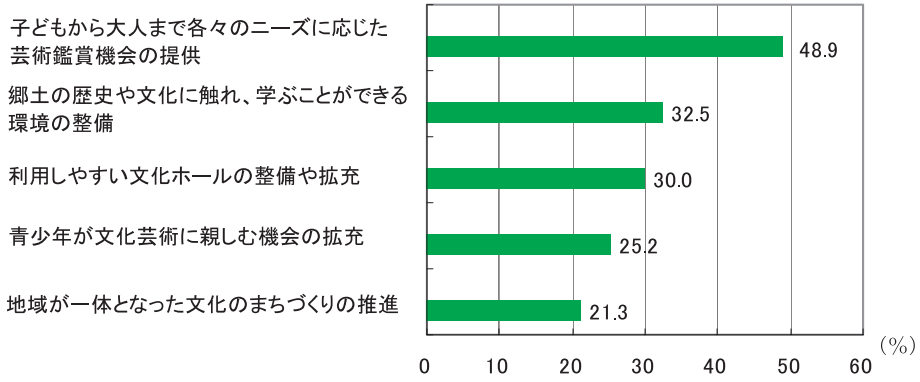
【熊本市内の伝統文化子ども教室（文化庁委託事業）の実施団体の推移】



一方、団塊の世代の退職時期を迎え、多様な知識・経験を持った人材が地域社会の中で文化芸術の新たな担い手となり、文化芸術活動がさらに活発化するとともに、子どもたちに文化を継承していくための重要な役割を果たすことが期待されます。

熊本の文化をさらに発展させていくため、あらゆる世代の人々が文化芸術活動へ参加しやすい環境づくりを進め、文化芸術活動の裾野を広げていく取り組みが必要です。

【熊本市文化及び国際化に関する市民意識調査結果（平成 20 年 10 月実施）】
○文化芸術の振興のため、熊本市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか？（複数回答）



※20%を超える回答があったものを抜粋

②　豊かな文化都市としてのブランド確立と情報発信力の充実

本市では、九州新幹線鹿児島ルートの全線開通や政令指定都市への移行を見据え、将来にわたって都市の活力を維持し、「九州中央の交流拠点都市」と

しての位置づけを確立するため、「熊本シティブランド戦略プラン」を策定しました（平成21年3月）。ブランドの構成要素として、「水」、「緑」、「もっこすの情熱（400年の歴史、ゆかりの人物、こだわりの食など）」を掲げ、都市ブランドの確立に取り組んでいます。

平成20年10月に実施した文化に関する市民意識調査においても、「『熊本の文化』という場合に思い浮かべるものは?」との質問に対し、「まち並みや建築物（熊本城、水前寺公園など）」、「水」、「郷土芸能（肥後にわか、獅子舞など）」、「歴史」との回答が多くなっています。

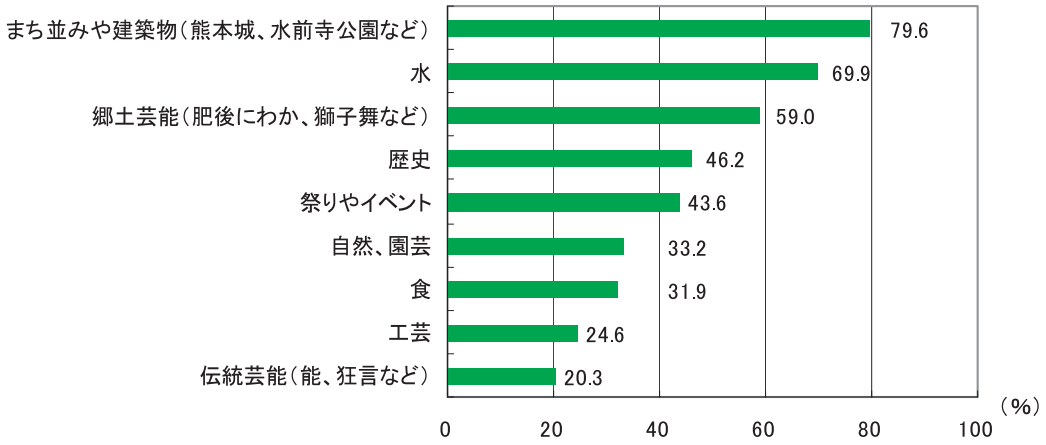
このような本市の豊かな文化を都市のイメージとして発信していくためには、まず、地域の特色ある伝統文化をはじめとする文化遺産や自然遺産を保存・保全、継承し、多くの人々がその魅力を実感することができるよう活用していくことが重要です。

また、これらの情報をインターネットなどの多様な情報メディアを積極的に活用し、国内外に効率的に発信できるよう、情報発信力をさらに充実させていく必要があります。

このようなことを通して、熊本の豊かな文化都市としてのイメージを確立し、国内外の相互交流を促進します。

【熊本市文化及び国際化に関する市民意識調査結果（平成 20 年 10 月実施）】

○『熊本の文化』という場合、どのようなものを思い浮かべますか？（複数回答）



※20%を超える回答があったものを抜粋

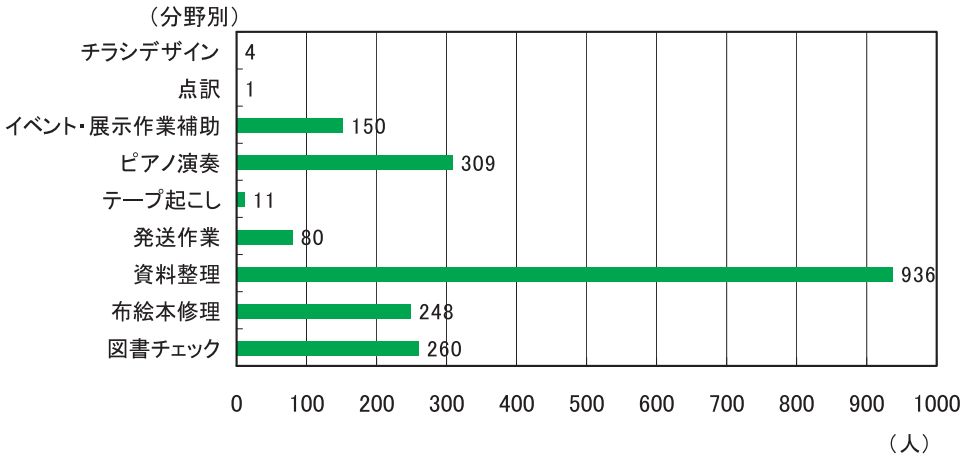
③　市民、民間団体、地域、企業、行政等による協働の拡充・推進

近年、市民や民間団体等の活動は急速に拡大しており、その活動領域は、環境保全や福祉、まちづくりなど様々な分野に広がっています。

文化芸術の分野においても、市民や文化芸術活動者はもとより、NPOやボランティアなどの多様な担い手によって、今までになかった協働による新たな取り組みが進められています。こうした民間による活動は、これからの文化芸術の振興において重要な核となっていくものです。

熊本市現代美術館においては、美術館ボランティアを発足させ、市民と協働して作りあげていく美術館をめざし活動しています。今後は、公共ホールの事業運営など、そのほかの様々な分野においても、市民の力を活かすことができるよう、市民、民間団体、地域、企業、行政など文化芸術に関わる多様な主体が連携・協力して事業を展開していくためのネットワークの構築や協働の仕組みづくりを進める必要があります。

【熊本市現代美術館の美術館ボランティア活動者延人数（平成 20 年度）】



熊本城

水前寺成趣園

江津湖

3　理念と取り組みの方針

市民、民間団体、地域、企業、行政など多様な担い手が主体的に文化を創造し、将来にわたって継承していくには、そのための人づくりや、その活動の舞台となる都市（まち）づくりが必要です。

また、政令指定都市移行に向けて、これまで以上に都市としての活力や魅力を高めていくことが求められており、政治や経済だけでなく、文化芸術振興においても、市民が愛着と誇りを持てる都市であり続けるよう、先人が残した文化遺産や自然遺産への市民の理解を促すとともに、将来に向けた新しい「くまもと文化」の創造に努めていかなければなりません。

有形、無形を問わず貴重な文化資源が、地域に暮らす人々の日々の営みにより今日まで継承されてきたように、これからの「くまもと文化」の創造と継承において主役となり、担い手となるのも、市民一人ひとりであり、また、民間団体や企業等であるといえます。

そしてこれからは、文化芸術の振興を主な目的とする従来の「狭義の文化政策」から、教育や福祉の充実、産業の活性化、地域の再生など様々な分野において、文化芸術の持つ創造性を活用しながら、これまでにない成果を得る「広義の文化政策」へと展開していくことが必要となってきます。

このようなことから、今後の熊本市の文化芸術振興における基本理念を

「人とまちが元気になる文化創造都市の実現」

とし、次の3つの方針に基づき、市民、民間団体、地域、企業、行政などの様々な主体がそれぞれの特性を活かして、連携・協働しながら、取り組みを進めることとします。

方針1　文化芸術活動を活発化し、市民の文化力を高める

様々な主体が協力して、誰もが文化芸術にふれたり、自ら文化芸術活動に参加できる機会を充実させるとともに、活動の担い手を支援します。また、文化芸術活動をマネジメントしたり、ボランティア活動などによって側面から支える人材の育成や総合的な情報発信・活動支援を行うアートセンター機能の整備など、活動するための環境の充実に取り組みます。このような取り組みをすすめることで、文化芸術活動が活発化し、市民一人ひとりや市民の総力としての文化力を高めていきます。

方針2　歴史と自然を活かした熊本らしい都市文化をつくる

肥後54万石の城下町として発展してきた熊本には、熊本城をはじめとした歴史的文化遺産や細川家の武家文化の流れを汲む茶道、肥後六花などの様々な特色ある伝統文化があります。市民みんなで、これらを保存・継承していくとともに、まちづくりに活かします。また、熊本の豊かな自然を保全・活用し、水と緑にまつわる文化を次の世代に引き継いでいきます。このような取り組みをすすめることで、熊本の象徴ともいえる歴史と自然を活用して、熊本らしい都市文化をつくります。

方針3　文化力で活力あるまちづくりをすすめ、都市の魅力を高める

様々な文化芸術活動において、人と人が協力し関わり合う中で、人々の絆が深まり、地域コミュニティの活性化にもつながります。市民、民間団体、行政等が協働して、文化芸術を活かして、地域の活力を高め、まちのにぎわいをつくりだします。また、文化芸術を通した国内外との交流をすすめ、新たな文化を創造していきます。このような取り組みをすすめることで、文化力により活力あるまちづくりをすすめ、熊本の都市としての魅力を高めていきます。

4　指針の位置づけ

○この指針は、本市の文化芸術の振興に関する基本的な方向を示すものです。

○この指針は、文化芸術振興の観点から熊本市第６次総合計画の「わくわく都市くまもと」の実現を支えるもので、「熊本シティブランド戦略プラン」、「熊本市観光振興計画」と連携・連動するものです。

○この指針は、市民、民間団体、地域、企業、行政など様々な主体が協働するための共通の指針として活用します。

○今後本市の各施策の推進にあたっては、この指針に掲げる方向性に沿って取り組みます。

5　指針の対象とする「文化芸術」の範囲

この指針では、文化芸術振興基本法が対象とするもののほか、熊本独自の文化として水や緑に代表される豊かな自然を対象とします。

〔参考〕文化芸術振興基本法の対象

- 芸術（文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術（メディア芸術を除く。））
- メディア芸術（映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術）
- 伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎その他の我が国古来の伝統的な芸能）
- 芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能（伝統芸能を除く。））
- 生活文化（茶道、華道、書道その他の生活に係る文化）
- 国民娯楽（囲碁、将棋その他の国民的娯楽）
- 出版物及びレコード等
- 文化財等（有形及び無形の文化財並びにその保存技術）
- 地域における文化芸術（各地域における文化芸術の公演、展示等、地域固有の伝統芸能及び民族芸能（地域の人々によって行われる民族的な芸能））

第Ⅱ章
目標と取り組みについて

人とまちが元気になる文化創造都市の実現

歴史と自然を活かした熊本らしい都市文化をつくる

熊本城をはじめとした歴史的文化遺産や伝統文化を保存し、活用しよう
（文化遺産の保存・活用、継承）

- 公民館や民間団体等による講座の開催など市民が郷土の歴史や文化にふれ、気軽に参加することができる機会を充実させる。
- 子どもたちが熊本の歴史や文化を学ぶ機会を充実させる。
- 「お城まつり」や地域の伝統行事などにおいて、市民が伝統文化・伝統芸能に親しむ機会をふやし、市民の理解をすすめる。
- 熊本城や水前寺成趣園などの歴史的文化遺産を保存・整備し、活用する。
- 城下町の趣を残す町並みや後世に残すべき優れた建造物を保存し、活用する。

豊かな自然を保全・活用し、水と緑にまつわる文化を次の世代に引き継ごう
（水や緑にまつわる文化の保存と活用）

- 「平成の名水百選（水前寺江津湖湧水群・金峰山湧水群）」や「熊本水遺産」等の水文化の保存や活用をすすめる。
- 「くまもと水ブランド」の情報発信をすすめ、「日本一の地下水都市・熊本」の魅力を内外にPRする。
- 熊本城や立田山などの緑地や森林を保全するとともに、緑に親しむ機会を充実させる。
- まちなかにおける木陰づくりや市電軌道敷の緑化など、新たな緑の文化を創出する。
- 豊かな自然に育まれた安全・安心で良質な地域の食材を用いた熊本の食文化の魅力を発信する。

文化力で活力あるまちづくりをすすめ、都市の魅力を高める

文化芸術を活かして地域を活性化しよう
（文化芸術を活かした産業やにぎわいの創出）

- 地域の歴史や伝統的な文化を活用してコミュニティ（地域社会）を活性化する。
- くまもとの魅力ある文化情報を発信することにより、豊かな文化都市のイメージを高め、国内外からの人や民間ビジネスの誘致をすすめる。
- 「お城まつり」、「みずあかり」、「ストリートアートプレックス」などの文化イベントを開催し、まちなかのにぎわいを創出する。
- 肥後象がんをはじめとした伝統工芸などの産業を活性化するとともに、文化芸術の創造性を活かして新しい産業を創出する。

文化芸術を通した交流をすすめ、新たな文化を創造しよう
（文化芸術による交流の促進、新たな文化の創造）

- 国内外において文化交流をすすめるうえでの基礎となる熊本の文化への理解をすすめる。
- 国内外において文化イベントを開催するなど、文化芸術による市民交流をすすめる。

【方針】

文化芸術活動を活発化し、市民の文化力を高める

【目標】

文化芸術にふれる機会を充実させよう
（文化芸術鑑賞機会の充実）

文化芸術活動への参加を促し、活動の担い手を支援しよう
（文化芸術活動への支援）

文化芸術を支える人材を育成し、活動する環境を充実させよう
（文化芸術を支える体制づくり）

【主な取り組みの例】
♠は行政が、♥は市民及び民間が主体となって取り組むこと

♠♥ホール、美術館等の文化施設や地域において、文化芸術に身近にふれる機会をふやす。
♠♥子どもや青少年の文化芸術に対する関心を高めるため、学校におけるコンサートやワークショップなどを行う。
♠♥文化イベント、会場、指導者や活動グループなど様々な文化芸術に関する情報をニーズに応じていつでも得ることができる仕組みをつくる。

♠♥地域の文化祭や公民館の文化活動など身近なところで市民が気軽に文化芸術活動に参加できる場や機会をふやす。
♠♥文化芸術活動者が発表、研修、交流する場や機会をふやす。
♠♥子どもたちが優れた舞台芸術や伝統芸能などにふれ、体験できる機会を充実させる。

♠♥市民・民間・行政などの参画によるアートセンター機能を整備する。
♠♥文化芸術を側面から支えるＮＰＯや市民ボランティア等を育成し、支援する。
♠♥アートマネジメントを行う人材を育成し、活用する。
♥企業等による文化芸術活動の支援をすすめる。
♠高齢の方や障がいのある方、小さい子どものいる方など、誰もが利用しやすい文化施設の整備をすすめる。
♠文化施設間のネットワーク化をすすめ、イベントを共同開催するなど、文化施設それぞれの持つ特長を活かした運営を行う。

方針１　文化芸術活動を活発化し、市民の文化力を高める

目標１　文化芸術にふれる機会を充実させよう（文化芸術鑑賞機会の充実）

市民一人ひとりが生きがいを持ち心豊かな生活を送るためには、文化芸術を身近に感じ、親しむことが必要です。特に、次代を担う子どもたちの感性を磨き、豊かな人間性を育むためには、多彩な文化芸術にふれる機会を充実させることが重要です。

市民のみなさんが多彩な文化芸術に親しむことにより、文化芸術に関する理解と関心を高めることができ、文化芸術活動の活発化、ひいては新しい文化芸術の創造につながっていきます。

また、文化芸術に身近にふれるためには、誰もが、いつでもどこでも必要に応じて情報を得ることができる環境が必要です。

そこで、熊本の文化芸術に関する情報を総合的に収集・提供できる仕組みを充実するとともに、多様なメディアを有効に活用した効果的な情報発信に取り組みます。

生涯を通じて文化芸術に親しむことのできる環境づくりを進め、地域に根付いた文化芸術の振興を図ります。

【主な取り組みの例】　♠は熊本市が、♥は市民及び民間団体が取り組むこと

♠♥　ホール、美術館等の文化施設や地域において、文化芸術に身近にふれる機会をふやす。

♠♥　子どもや青少年の文化芸術に対する関心を高めるため、学校におけるコンサートやワークショップなどを行う。

♠♥　文化イベント、会場、指導者や活動グループなど様々な文化芸術に関する情報をニーズに応じていつでも得ることができる仕組みをつくる。

目標2　文化芸術活動への参加を促し、活動の担い手を支援しよう（文化芸術活動への支援）

市民のみなさんが自主的で創造的な文化芸術活動を通じて、個性や創造性を発揮し、生き生きと暮らしていくためには、気軽に創造・発表できる場や機会の充実を図るなど、みなさんの文化芸術活動を活発化させることが必要となります。

また、文化芸術活動の指導者や創り手への支援を進めるとともに、これからの文化芸術を発展させていくため、新進・若手芸術家等の発掘や支援を行い、次代の文化芸術の担い手となる子どもたちの文化芸術体験活動を充実させるなど文化芸術活動の裾野を広げる取り組みを進めていきます。

【主な取り組みの例】　♠は熊本市が、♥は市民及び民間団体が取り組むこと

♠♥　地域の文化祭や公民館の文化活動など身近なところで市民が気軽に文化芸術活動に参加できる場や機会をふやす。

♠♥　文化芸術活動者が発表、研修、交流する場や機会をふやす。

♠♥　子どもたちが優れた舞台芸術や伝統芸能などにふれ、体験できる機会を充実させる。

目標3　文化芸術を支える人材を育成し、活動する環境を充実させよう（文化芸術を支える体制づくり）

文化芸術を支え発展させていくためには、文化施設の環境整備とともに、文化芸術の創り手と受け手（市民）をつなぎ有効に機能させるアートマネジメント※注1）などソフト面の充実も欠かせません。

市民のみなさんが行う文化芸術活動や文化芸術によるまちづくりを総合的にプロデュースする役割を担うアートセンター※注2）機能の整備や、市民のみなさんと協働して熊本の文化芸術の拠点となるような施設の運営を進めるなど、文化芸術を支えるための体制づくりに取り組みます。

【主な取り組みの例】　♠は熊本市が、♥は市民及び民間団体が取り組むこと

- ♠♥　市民・民間・行政などの参画によるアートセンター機能を整備する。
- ♠♥　文化芸術を側面から支えるNPOや市民ボランティア等を育成し、支援する。
- ♠♥　アートマネジメントを行う人材を育成し、活用する。
- ♥　企業等による文化芸術活動の支援をすすめる。
- ♠　高齢の方や障がいのある方、小さい子どものいる方など、誰もが利用しやすい文化施設の整備をすすめる。
- ♠　文化施設間のネットワーク化をすすめ、イベントを共同開催するなど、文化施設それぞれの持つ特長を活かした運営を行う。

※注1）具体的には、ホールや美術館等の文化施設、文化芸術団体などにおいて、公演・展示等の企画・制作、マーケティング、広報等に従事する業務や文化芸術の振興に向けた政策の提言・調査研究、資源（人・モノ・カネ・情報）の仲介等に従事する業務などを行います。

※注2）文化芸術に関わる市民（活動する人、鑑賞する人、支援する人など）が、情報を共有し、交流・連携することで、市民の活力と新たな文化を生み出す場（場所またはその機能）

方針2　歴史と自然を活かした熊本らしい都市文化をつくる

目標1　熊本城をはじめとした歴史的文化遺産や伝統文化を保存し、活用しよう（文化遺産の保存・活用、継承）

熊本市には、熊本城をはじめとした数多くの歴史的文化遺産や建造物、様々な伝統文化が今日まで受け継がれています。これらは、熊本の歴史や文化を理解するうえでなくてはならないものであり、市民の郷土に対する愛着や誇りを醸成していくものです。

また、熊本の歴史と風土の中で育まれてきた工芸、芸能、年中行事、祭り、方言といった様々な伝統文化は、熊本の文化を支える基盤となると同時に、都市としてのアイデンティティ（個性）を形成する核となり、魅力ある都市づくりの重要な要素となります。

熊本の宝である文化資源を発掘するとともに、文化遺産や伝統文化を保存・活用することにより、新しい文化芸術を創造し、次の世代へ引き継いでいきます。

【主な取り組みの例】　♠は熊本市が、♥は市民及び民間団体が取り組むこと

- ♠♥ 公民館や民間団体等による講座の開催など市民が郷土の歴史や文化にふれ、気軽に参加することができる機会を充実させる。
- ♠♥ 子どもたちが熊本の歴史や文化を学ぶ機会を充実させる。
- ♠♥ 「お城まつり」や地域の伝統行事などにおいて、市民が伝統文化・伝統芸能に親しむ機会をふやし、市民の理解をすすめる。
- ♠♥ 熊本城や水前寺成趣園などの歴史的文化遺産を保存･整備し､活用する。
- ♠♥ 城下町の趣を残す町並みや後世に残すべき優れた建造物を保存し、活用する。

目標2　豊かな自然を保全・活用し、水と緑にまつわる文化を次の世代に引き継ごう（水や緑にまつわる文化の保存と活用）

熊本市は、生活用水を全て地下水で賄うことができる「日本一の地下水都市」です。地下水や湧水群、河川などの豊かな水資源は、市民の生活を支えるとともに、熊本の歴史や文化、伝統行事などと深く関わっています。これらの水資源を保全するとともに、水にまつわる風土や文化の保存と継承を進め、熊本の水の魅力を内外に発信します。

また、古くから「森の都」と称されるように、熊本市は豊かな緑に恵まれています。これらの緑を保全するとともに、緑化を推進することにより、緑豊かな都市環境を創造します。

清らかな地下水と豊かな緑に代表される恵まれた自然は、多くの市民が文化的な要素の一つとして誇りを感じているものであり、市民共有の財産です。こうした自然を生かして、誰もが心豊かに暮らせ、住みやすさを実感できる環境づくりを進めるとともに、後世に伝えていきます。

【主な取り組みの例】　♠は熊本市が、♥は市民及び民間団体が取り組むこと

- ♠♥「平成の名水百選（水前寺江津湖湧水群・金峰山湧水群）」や「熊本水遺産」等の水文化の保存や活用をすすめる。
- ♠♥「くまもと水ブランド」の情報発信をすすめ、「日本一の地下水都市・熊本」の魅力を内外にPRする。
- ♠♥熊本城や立田山などの緑地や森林を保全するとともに、緑に親しむ機会を充実させる。
- ♠♥まちなかにおける木陰づくりや市電軌道敷の緑化など、新たな緑の文化を創出する。
- ♠♥豊かな自然に育まれた安全・安心で良質な地域の食材を用いた熊本の食文化の魅力を発信する。

方針３　文化力で活力あるまちづくりをすすめ、都市の魅力を高める

目標１　文化芸術を活かして地域を活性化しよう（文化芸術を活かした産業やにぎわいの創出）

地域の特性や歴史の中で育まれてきた文化芸術は、地域のアイデンティティを形成する核となり、魅力ある都市づくりの重要な要素となるものです。文化芸術の持つ様々な力は、市民の創造性を育み、地域の魅力や活力を一層高めるとともに、創造的な産業を生み出し、まちのにぎわい創出に結びつきます。

また、熊本の多種多様な文化資源は、市民の心を豊かにすると同時に、他の地域に住んでいる人たちにとっては、魅力的な観光資源となるものです。熊本城などの歴史的文化遺産や伝統文化といった伝統的なものだけでなく、今まさに生み出されている新しい文化芸術を含めた熊本の文化資源の魅力を高め、市民・民間団体・行政などが相互に連携して熊本の文化資源を活用し、文化芸術を活かした地域の活性化に取り組みます。

【主な取り組みの例】　♠は熊本市が、♥は市民及び民間団体が取り組むこと

- ♠♥　地域の歴史や伝統的な文化を活用してコミュニティ（地域社会）を活性化する。
- ♠♥　くまもとの魅力ある文化情報を発信することにより、豊かな文化都市のイメージを高め、国内外からの人や民間ビジネスの誘致をすすめる。
- ♠♥　「お城まつり」、「みずあかり」、「ストリートアートプレックス」などの文化イベントを開催し、まちなかのにぎわいを創出する。
- ♠♥　肥後象がんをはじめとした伝統工芸などの産業を活性化するとともに、文化芸術の創造性を活かして新しい産業を創出する。

目標2　文化芸術を通した交流をすすめ、新たな文化を創造しよう（文化芸術による交流の促進、新たな文化の創造）

文化芸術を通した交流は、それぞれの持つ多様な文化への理解を深めるとともに、自らの文化を再認識し、新たな文化の創造へと発展していく契機となります。

市民が広い視野で自らを取り巻く環境や文化の特徴をあらためて見直し、熊本の文化に対する理解を深めることで、お互いを理解し尊重できる社会を築くことができるよう、地域や世代を越えた交流を促進し、個性豊かで創意と活力にあふれたまちをめざします。

【主な取り組みの例】

♠は熊本市が、♥は市民及び民間団体が取り組むこと

♠♥　国内外において文化交流をすすめるうえでの基礎となる熊本の文化への理解をすすめる。

♠♥　国内外において文化イベントを開催するなど、文化芸術による市民交流をすすめる。

みずあかり

ストリートアートプレックス
（まちなかを舞台にジャズ、クラシック、大道芸など様々なパフォーマンスを展開し、中心市街地を活性化するプロジェクト）

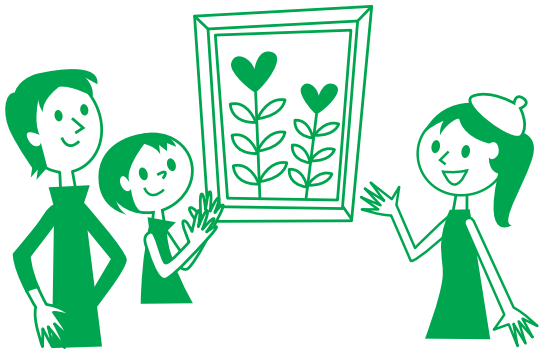
6　取り組みの推進に向けて

文化芸術は市民自らの手で育てていくものです。地域に根ざした「くまもと文化」の創造を通して、まち全体の「文化力」を高めていくためには、市民、民間団体、地域、企業など様々な活動主体が取り組みの方向性を共有し、それぞれの特性を活かしながら、協働して取り組むことが必要です。

それぞれの主体が、どの分野にどのように関わっていけばよいのか、その方向性を明らかにするとともに、多様な活動の担い手による協働のためのネットワーク化を進めるなど実際の活動に役立てるためのきめ細かな情報提供に努めます。

また、市民への周知・広報に努め、文化芸術の振興はもとより、教育や福祉の充実、産業の活性化、地域の再生などの様々な分野において文化芸術を積極的に活用することで、新たな成果を導き出すというビジョンの浸透を図ります。

なお、本指針に掲げる目標・方向性については、市民・民間団体・地域・企業・行政などの様々な取り組み状況の把握などにより概ね3年毎にその成果を検証し、さらなる取り組みに反映させていきます。



熊本市
文化及び国際化に関する市民意識調査
― 概要版 ―

調査の目的

市民一人ひとりが文化に親しみ、国際的な視野を広げつつ、心の豊かさを実感できるような環境づくりを進めるため、文化及び国際化に関する市民のニーズ等を把握し、熊本市文化振興計画及び熊本市国際化指針の見直しにあたっての基礎資料とすることを目的とする。

調査概要

住民基本台帳及び大学、諸団体等の在籍者から抽出された 3,500 人を対象に、調査を行いました。

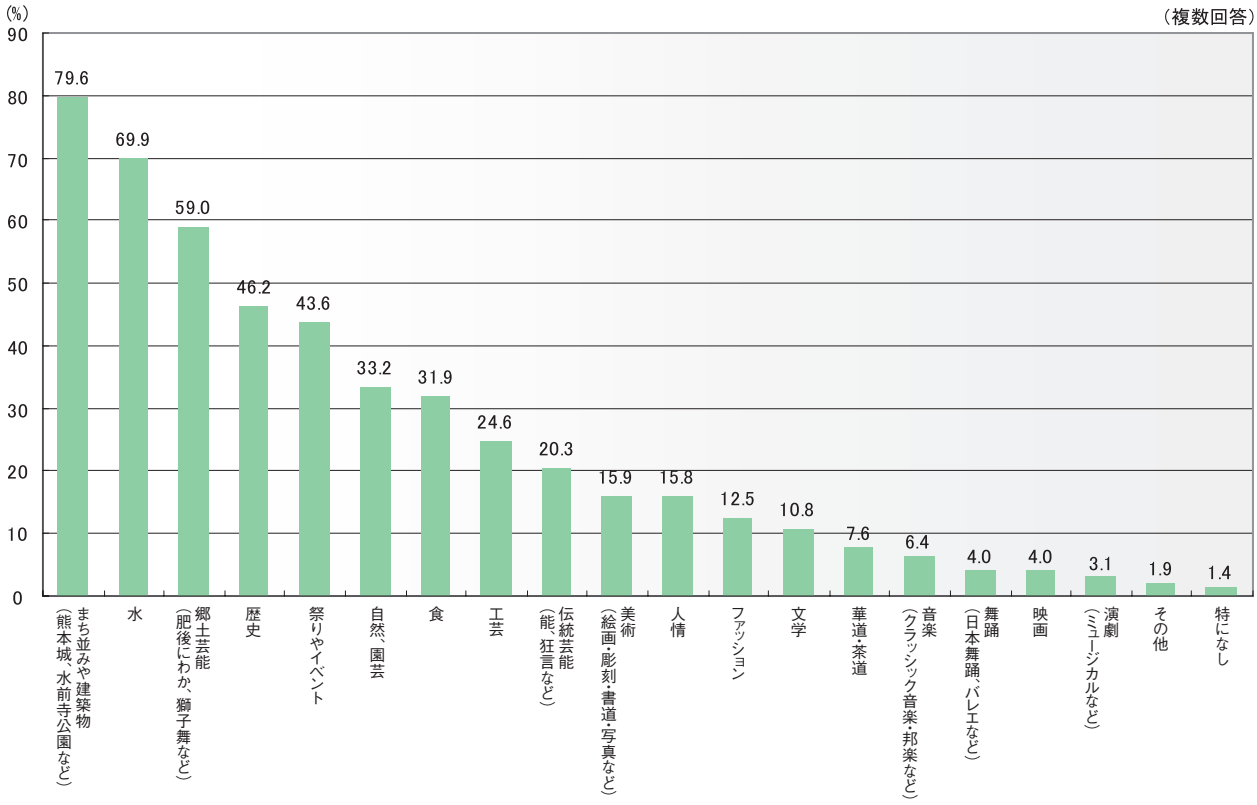
1 調査地域	熊本市全域
2 調査対象者	熊本市に在住する満 18 歳以上の男女
3 標本抽出方法	市　　民：住民基本台帳から無作為抽出 外国人市民：大学、諸団体等の在籍者から抽出
4 標本数	市　　民：3,000 人 外国人市民：　500 人
5 有効回収数（率）	市　　民：1,243 人（41.4%） 外国人市民：　205 人（41.0%）
6 調査方法	市　　民：郵送による配布・回収 外国人市民：関係団体を通して配布・回収
7 調査時期	平成 20 年 10 月 20 日～10 月 31 日

※調査結果利用上の注意
　回答率は百分比の小数第２位を四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合があります。

1　熊本の文化に対するイメージについて

問　あなたは、「熊本の文化」という場合、どのようなものを思い浮かべますか？

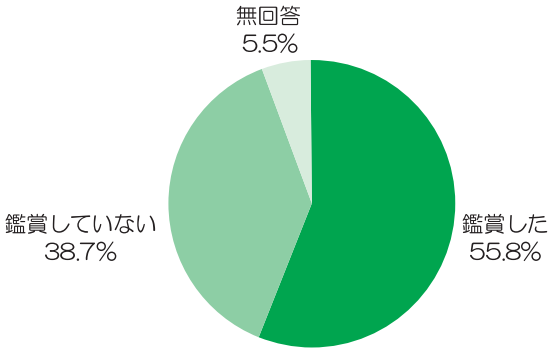
「まち並みや建築物」、「水」、「郷土芸能」は半数を超えていますが、「華道・茶道」、「音楽」、「舞踊」、「映画」、「演劇」は１割未満となっています。

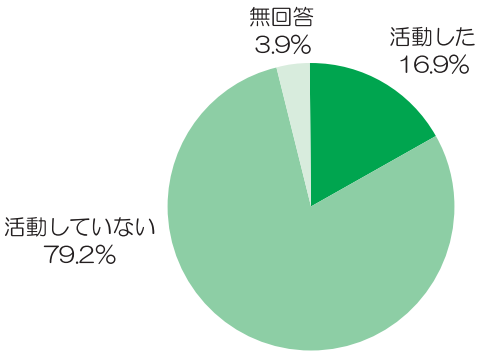


2　文化芸術に触れる機会について

問　あなたは、この１年間で、文化芸術の催しなどを鑑賞しましたか？

「鑑賞した」が55.8%となっており、半数以上の方が鑑賞していることがわかります。





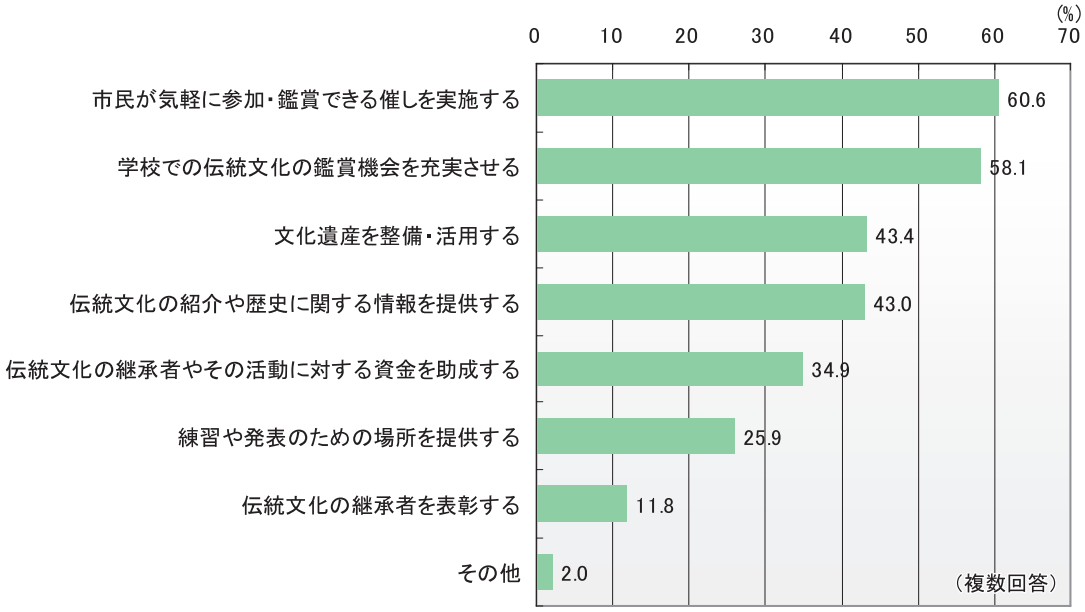
問　あなたは、この１年間で、文化芸術活動（活動の指導、公民館・カルチャースクール講座などへの参加、習い事の成果発表会など）をしましたか？

「活動していない」が79.2%と、全体の約８割を占めています。

3 伝統文化について

問 伝統文化を保存し、次世代に継承するため、どのような取り組みが必要だと思いますか？

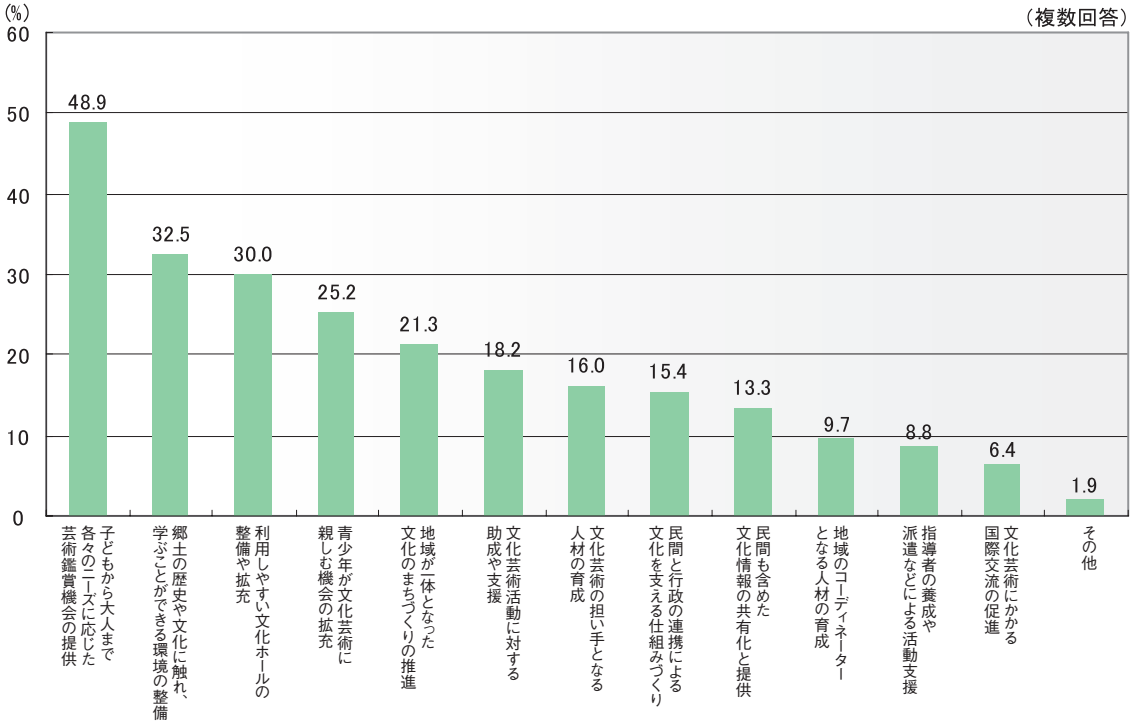
「市民が気軽に参加・鑑賞できる催しを実施する」（60.6%）、「学校での伝統文化の鑑賞機会を充実させる」（58.1%）について、全体の半数以上の人が必要と感じています。



4 熊本市の文化政策について

問 文化芸術の振興のため、熊本市はどのようなことに力をいれたらよいと思いますか？

全体の約半数の人が「子どもから大人まで各々のニーズに応じた芸術鑑賞機会の提供」（48.9%）に力を入れてほしいと感じています。



熊本市文化芸術振興指針及び熊本市国際化指針策定委員会委員

氏　名	役　　職　　等
明石　照久	熊本県立大学総合管理学部教授
池田　美樹	劇団きらら代表
小西　たくま	熊本市文化事業協会芸術監督
最相　博子	熊本同時通訳者協会代表
坂口　美由紀	公募委員 コモド・アート・プロジェクト代表
田代　クリスティーナ	熊本大学スペイン語講師
田辺　裕子	公募委員 造園設計士（ランドスケープアーキテクト）
中村　芳生	日本貿易振興機構熊本貿易情報センター所長
古川　憲治	熊本大学副学長
吉丸　良治	九州産業交通ホールディングス株式会社顧問
原　幸代子	熊本市市民生活局長

（敬称略、50 音順）

このページは白紙です。

熊本市文化芸術振興指針

平成22年3月　発行

熊本市市民生活局文化生活部文化国際課
〒860-8601　熊本市手取本町1－1
電話 096-328-2070　　FAX 096-355-4443
電子メール bunkakokusai@city.kumamoto.lg.jp